

# た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地 TEL&FAX;0595(21)8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken> E-mail:[iga-ken@iga.ed.jp](mailto:iga-ken@iga.ed.jp)

## 研究発表会で大きな学び♪～緑ヶ丘中～

10月27日(木)、緑ヶ丘中学校で「伊賀市教育委員会指定 学校教育研究事業推進校研究発表会」が開催されました。3学級による公開授業、研究概要報告、授業者からの振り返り、講演等が実施され、多くの参加者が学びを深めることができました。

研究の概要、当日の様子について報告します。

### 1 研究の概要

◇研究主題 タブレット端末を活用して、主体的・対話的で深い学びを実現するために～「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善～

#### ◇研究内容

- ・ 個々の生徒たちの状況を客観的・継続的に把握し、教育データを利活用した効果的な学びの支援
- ・ 知識・技能の定着を助けるためにデジタル教材の活用
- ・ ICT機器を活用した学習活動による指導力の向上

#### ◇具体的な取り組み

- ・ 外部講師(東京学芸大学ICTセンター 森本教授、伊賀市教育委員会指導主事等)を積極的に招聘し、教員の授業力・指導力の向上を目指す校内研修を行う。
- ・ タブレット端末を積極的に活用し、教師の指導力向上、生徒が主体的に学習に取り組むことができる授業について研究を深める。
- ・ 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現するために、各教科・単元において、実現したい生徒の姿から、具体的な手立て(学習活動)について考える。
- ・ 授業において、「めあて(自分で課題を見つける)」と「ふりかえり(自分の学びを振り返る)」を明確にする。研究授業では、各グループ(国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、音美技家)で参観し合い、指導案検討や事後検討会を行い、協議・研究・交流を深める。
- ・ 指導案は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(文部科学省国立教育政策研究所)を参考として引用し、全教科共通指導案を作成し、緑ヶ丘中学校指導案集を作成する。

- ・ 本校の生徒の課題である「条件を満たして説明する力・言葉や図を用いて説明する力が低い」を克服するために、自分の行動や考え方を振り返る「見つめメッセージ」による取り組みを実施する。さらに、「見つめメッセージ」は、通信などで保護者・生徒に発信し、互いの思いを知ったり自分を見つめたりすることによって、自己肯定感の向上をはかる。

#### ◇具体的実践例 ～各教科部会を充実させる～

- ・ 国語 2 年「壁に残された伝言」(対話的な学び)  
班で協働して問題解決を行い、それをもとにタブレットを用いて発表する。
- ・ 社会 2 年「首都東京の役割」(主体的な学び)  
発問を Teams で行い、発言することが苦手な生徒でも自分の意見を全体に伝える。
- ・ 数学 1 年「文字式の利用」(対話的な学び)  
グループ活動を活用して、お互いの考えを比較し、自分の考えと結び付ける。
- ・ 理科 3 年「遺伝の規則性と遺伝子」(対話的な学び)  
キーワードについて考えた内容を班で出し合い、互いの情報を組み合わせながらめあてにせまる。
- ・ 英語 2 年「Homestay in the United States」(対話的な学び)  
3～4 人グループになり、出し合った意見をロイロノートで全体に共有する。
- ・ 技術 2 年「運動を変化させる仕組み」(深い学び)  
模型やシミュレーションなど、アナログとデジタルを組み合わせることで体験的な学習を行う。
- ・ 保健体育「リレー」(対話的な学び)  
リレーのバトンパスの動画を撮影し、班で動画を見ながら自分たちの課題を発見し、改善策を考える。



#### ◇公開授業

##### 1 年「CM ソングをつくろう」【音楽科】

- \* 本時のねらい
  - ・ 音色や速度などをアレンジし、CM ソングをつくる。
  - ・ 創作した CM ソングをグループで発表して意見交流し、作品を完成させる。

##### 2 年「図形の性質と合同」【数学科】

- \* 本時のねらい
  - ・ 三角形の内角の和をもとに、多角形の内角の和について考察し、求め方を説明できるようにする。

##### 3 年「消費者生活と経済のしくみ」【社会科】

- \* 本時のねらい
  - ・ 消費者の権利や消費者保護生活について理解するとともに、自立した消費者になるために必要なことを多面的・多角的に考察し、説明できるようにする。
  - ・ 18 歳となる 3 年後には自分で契約を結ぶことのできる立場になることを理解し、自立した消費者になろうとする意欲を高める。

## 2 授業の様子

3学級(各学年1)の公開授業がありました。3学級とも授業の様子を参観させていただきました。それぞれ15～20分間の参観となりましたが、研究主題と関わる視点からの「気づき」や「感じたこと」などを4点お伝えしたいと思います。

### (1) 教師の説明中心授業からの脱却

教室の前方から参観したこともあり、生徒一人ひとりの表情や学習する様子がとてもよくわかりました。グループで話し合う場面では、どの生徒も顔を上げ、タブレット端末を活用しながら話し合いを進めていました。どちらかと言えば、これまでの授業は、決まった生徒が発言したり、つぶやいたりすることはあっても、教師が前で説明する時間が多く、生徒たちにとってはまさに受け身の授業が多かったように思います。しかし、公開授業では、その概念を崩し、教師の指導力向上を図るとともに、生徒が主体的に学習に取り組む「授業改善」を目指す強い意識と具体的な場面をみることができたと思っています。

タブレット端末を使用しグループで話し合うことによって、考えることや発表することが苦手な生徒も、違った方法で自分の力を発揮できる、学びをつくれるメリットがあります。何をしてよいかわからずぼーっとしている、やる気がなく伏せている、授業に関係のないことをしている・・・といった姿は全くありませんでした。

### (2) タブレット端末の活用の熟練と効果的な活用

生徒一人ひとりが、タブレット端末に対する苦手意識がなく、順応・適応しているなど感じました。教科書やノートなどの学習用具の一つになっていると思いました。また、学習の様々な場面でより効果的な活用の方法が提示・実践され、うまく使いこなしていることを実感しました。ここまで積み上げてくる過程は大変だったと思いますが、まさに一つのツールになっていると思いました。

また、以前からグループ学習ではそれぞれの考えを模造紙に書き、整理していくという手法が多く取り入れられてきましたが、タブレット端末を使うことで視覚化・焦点化・効率化がなされているのではないかと参観していて感じました。

ご講演いただいた森本教授からいつも示唆をいただいていることですが、ICT活用が目的ではなく、学びを深めるための一つの道具として活用するという前提がどのクラスでも位置付けられていました。

### (3) 主体的で対話的な学びが生まれている

3～4人のグループをつくり、話し合う場面では、活発に意見交換がなされ、代表者が端末に入力していました。決して人任せにするのではなく、入力していない生徒も話し合いに積極的に参加し、自らの考えを出していました。また、それぞれの意見は提示された資料や条件をもとに裏付けされたものであり、考えの根拠を明確にしている話し合いは見えていて気持ち良かったです。

グループで話し合ったことを代表者が全体へ発信するという場面では、グループの代表者の発表を聞きながら、そのグループ内の生徒がうなずいたり、笑顔になって見つめたりするなど、グループとして発表しているという一体感をありました。さらには、質問があった時は、グループ内の違う生徒から「それは、・・・ということです。」というように、自

席から説明や補足があり、みんなで学んでいるという印象を強く受けました。

#### (4) 「深い学び」にどうつなげていくか

(3)で記述したように、主体的に学習するとともに対話がなされ、その中で「そうか」「そうなんだ」「なるほど」といった気づきが生まれていることを感じました。その姿は、まさに「アクティブ・ラーニング」であったと思います。それぞれのグループで話し合われたことを発表する場面でも端末を活用し、全体で共有しながら聴き合っていました。50分の授業でどう学習過程を組むか、また振り返りまでの時間確保をどう設定するかというタイムマネジメントはとても難しいことですが、50分を有効につかい、全体でどう学びを深めていくかが今後の課題だと感じました。あれだけの学習を展開できる皆さんの力で、ぜひ「深い学び」の質的深まりを期待しています。

### 3 講演から

#### 「先生がやりたい授業、生徒たちが笑顔で対話する授業 ～伊賀モデル with ICT～」

東京学芸大学 ICT センター教授 森本 康彦 さん

森本さんからお話を聴き、心に残ったキーワードを紹介します。

- ICTにふり回されない授業を。ICT活用は目的でない。教科等での学びそのものを促進させる。
- 「対話」はもっとも効果的な学び。学習者が最も気づくことができる学びの活動。
- 対話することで、今求められているたくさんの資質・能力（伝える力、聞く力、協働する力、チームワーク、コミュニケーション力、合意形成する力、多様性など）の育成が期待できる。
- 授業づくりのポイントは、いかに生徒たちに「気づき」を与えるか。
- (ICTで) 学びが起きる (気づきを得る) 4 シーン  
みる/きく とき                      考える/かく とき  
やってみる とき                      話す とき  
\*気づきを深める4シーンの組み合わせを
- 二つの授業観～あなたはどちらですか？～
  - ①一つ一つのベストの授業を積み上げていくことが大事！そうすれば必ず成長できる！
  - ②熟達するゴールを設定して、どうやってそこを目指すか考え、授業を毎日改善しながら進んでいく過程こそが大事！
- 伊賀モデル with ICT
  - ①課題を知る・・・みる/きく
  - ②個人で課題に取り組む・・・やってみるこれまでの学習を生かして、まず個人で取り組み、課題に対する自分の考えをもつ。



③仲間と考えを共有し、考えを深め、広げる・・・考える/かく - 話す

対話することで、考えを共有・整理し、考えを広げたり、新しい考えを生み出したりする。

④仲間と協働し課題に取り組む・・・やってみる

仲間と協働して課題に取り組むことで、問題解決を行う。

⑤全体に成果等を発表し共有する・・・話す

仲間・クラスの全体に向けて成果等(失敗も含めて)発表することで交流を行う。

⑥学びを振り返る

学びにおける気づきを記録に残すことで外化し、自分なりの価値をつくり出していく。

- ・ 陥りやすい問題に留意を・・・編集作業にならないように。そうすると形だけのプレゼン発表になってしまう。気づきがあること、学び合い、教え合いが大事。

私自身、今年度、森本さんから3回目のお話を聴かせていただく機会となりました。

ICTを効果的に活用する中で、いかに「対話」を設定・実現できるかが重要だと改めて感じました。「対話」を通して「気づき」が生まれます。その「気づき」が授業づくりの大きなポイントになります。「気づきを得る」ためにどう学習を組んでいくのか、ヒントとなる「伊賀モデル with ICT」について道筋と具体的実践の場面を示していただきました。

最後に、「③仲間と考えを共有し、考えを深め、広げる」「④仲間と協働し課題に取り組む」活動の中で、『編集作業にならないように留意を!』と話されました。それぞれが考えたことを編集するだけになってしまい、気づきが埋もれてしまうことがあってはならない、気づきがある、学び合い、教え合うことが発表の中に組み込まれていくことを指導する側が意識していくことが重要だと示唆いただきました。

松田校長先生が研究発表会の挨拶で、いろいろな課題はあるものの生徒たちが一生懸命授業に向き合おうとしていること、大事にしていることが学習の場だけでなく生活の場でもつながっていること(当日の下校時の生徒たちの様子に表れていました)を話されましたが、生徒たちの成長を喜び、誇りとしていることがよく伝わってきました。また、研究発表会だけでなく日々の授業改善や教育活動に協働し取り組んでいる教職員を厚く信頼していることもひしひしと伝わってきました。



緑ヶ丘中学校の教職員の皆さん、お疲れさまでした。研究発表会がゴールではなく、一過程であり、今後さらなる研鑽を積まれることを願っています。ありがとうございました。

雑感：かつて友生小学校に勤務し関わってきた子どもたち(当時小2~小4)が学ぶ様子を緑ヶ丘中学校研究発表会で見せてもらってきました。毎年一度は学校訪問をしている関係で全くの久しぶりというわけではありませんが、成長した姿を見ながら当時を懐かしく思い出しました。ちょっとしたことで大喧嘩することが少なくなかったことやなかなか授業に集中できなかったこと、でも心がホットでやると決めたらとことん粘り強く取り組んでいた姿やチャイムが鳴ると大急ぎで教室へもどって行く姿など、様々なことがよみがえってきました。それぞれ中1~中3になり、授業に向き合い話し合いを進める様子は感動的でした。教職員が意図をもって継続的に積み上げていくことで子どもたちが大きく成長することを改めて感じました。公開授業のような授業を毎時間することは難しいと思いますが、「気づき」や「対話」のある授業を常にめざしていきたいですね。